



けやき坂

川西市立けやき坂小学校
校長 天宅 宏

蜻蛉やとりつきかねし草の上
松尾 芭蕉

肩に来て人懐かしや赤蜻蛉
夏目 漱石

大空にとどまつてをる蜻蛉かな
高浜 虚子

とどまればあたりにはふゆる蜻蛉かな
中村 汀女



好天に恵まれ、子どもたちが力を出し切った運動会も無事終わり、深まりゆく秋です。秋というと思い浮かぶ情景は赤とんぼです

左の4つの俳句は6年生の国語の教科書に載っています。「とんぼ(蜻蛉)の俳句を比べる」(P81)の学習です。江戸時代の芭蕉から近代、現代の作家の作品を並べています。どれもとんぼを題材にしていますから、4つの俳句には共通するとんぼの生態があります。何かおわかりでしょうか?

「ホバリング(飛びながら空中に静止すること)」です。

教科書には、一つひとつの俳句に解説があるのでも、どんな情景を詠んだかがわかり、子どもたちにはそう難しい問題ではありません。でも、解説なしで読み解くには、結構、難しいかもしれません。「ホバリング」という答えがわかってからも、それぞれの俳句のどの言葉・表現からそう言えるのかその根拠を見つけ、説明するのも思考力・言語力を高めることになるでしょう。教科書では4つの俳句を学んだ後、「同じ題材で作られた俳句を二句以上さがし、それぞれのよさを見つけよう」という展開になります。

今年から新学習指導要領が全面実施となり、教材もいくつか新しくなり、子どもたちの学ぶ意欲や学力を高める工夫もあります。読書や勉強に適した季節です。保護者の皆様も時間があるときはお子さんの教科書をのぞいてみてください。

「あいさつ」を考える

～あいさつは、心をつなぐ第一歩～

朝の登校時に私は正門前、教頭先生は学校前の横断歩道、安全協力員の方々は要所に、常時立ち番していただき、愛護部の方そして教師も数名、集合場所まで見守りに行っていただいています。そのお陰で子どもたちは、ほぼ全員が7:55～8:10の間に正門から登校し終えます。これは、すばらしいことだと思っています。

たくさんの大人の目で子どもたちが見守られながら、安心して、安全に毎日登校できるということはとても重要なことだからです。その際に大事なことは、子どもたちが、「登校中の安全を互いに守り合うこと」「あいさつをすること」「見守ってくれている人に子どもが感謝の気持ちをもつこと」だと思っています。育てたいことはこの3点です。そのうちの「あいさつ」について少し述べたいと思います。

私が正門に立って1学期間、子どもがあいさつをしている様子を見てみると子どもたちの中には3種類のあいさつがありました。①：大多数の子どもたちは、私が「おはよう」とあいさつをするとその声を聞いて「おはようございます」とあいさつを返してくれます。もちろん、②：私の顔を見るなり先に、元気よく、大きな声で「おようございます」と明るい顔であいさつをしてくれる子もいます。先にあいさつをされるとこちらはとてもうれしい気持ちになります。③：一番、よくないのは、こちらが先にあいさつをしても、聞かずにいるはずなのに知らぬ顔で行き過ぎる人です。これは、解せません。失礼です。

考えてみると年上、目上の人、先輩には②のあいさつをすることが礼儀であり、基本です。①が悪いというわけではないのですが、社会常識としては、お客さんや年上、先輩には、相手より先に、はきはきと声を出し、あいさつをするのが礼儀です。低学年はともかく、5、6年生になると社会常識として身につけておかなければなりません。中学校に行くと、部活に入ると当然、先輩へのあいさつはこの先出しあいさつを



教えられます。同級生・友だち同士であるなら、対等ですからどちらが先でも構わないし、ことばも「オッス！」でもいいでしょう。今は、家族の中でもそうかもしれません。昔、家父長制度の色濃かった時代、家族の中でも、子どもは父親に対しては必ず「おはようございます」だったはずです。すなわち、「あいさつ」は人と人の関係性を表す面があります。本校の子どもたちもお客さんや目上の人、お世話になっている人には②の先出しあいさつができるようになってほしいと思っています。

ただ、この「あいさつの指導」も強制的、管理的、形式的になるのはいかななものかと思われま。③の状態の子どもたちの中には登校前にいやなことがあったり、おうちのひととけんかしたり、心が荒んだまま学校に向かう子もいるからです。時には「むしゃ、くしゃしてあいさつなんかする気もない！」という最悪の精神状態の時もあるでしょう。そんな様子を察して、叱るのではなく「今日はどないしたん？元氣出しや！」と声かけするのも「子どもを見守る」教師、大人の適切な「あいさつ指導」だと思います。毎朝、子どもを見守ってくれる安全協力員さんの中にそんな対応ができる方もおられます。ありがたいことです。

「あいさつ」は、画一的なものでなく、その子に応じた、その時々適切な「声かけ」となることも必要です。「あいさつは心と心をつなぐ第一歩」です。「適切な声かけ」は、最上級の「あいさつ指導」といえるでしょう。

「あいさつをしよう」は本校の一年間通しての生活目標です。これからも「あいさつ・声かけ運動」へのご協力をよろしくお願いします。

お知らせ その1: 「入賞・入選者の紹介」(職種・学年略)

①2011年度 人権文化をすすめる県民運動 標語「優秀賞」

「なりたいたいな 人の痛みが わかる人」 大東 光咲

② MOA美術館川西児童作品展

<絵画の部> 兵庫県教育長賞: 越智韻葵 銅賞: 池田楓

佳作: 吉岡玄介、松木陽杜、カールソン江梨花、森田健太郎

吉岡美羽、佐野裕己、井川碧、カールソン歩仁佳、深田葵 <

書写の部> 川西市長賞: 坂下ゆう

銀賞: 坂下ゆか、丸橋未優

銅賞: 木下琉宇

佳作: 澄川竜太郎、前田彩香、山本明日香、野田芽唯、眞鍋良輔

入賞・入選者の作品は、11月5日10時~中央公民館に展示されます。おめでとう!



お知らせ その2: 4年生 連合音楽会に出演

4年生は10月20日(木)・第55回川西市小学校・養護学校 連合音楽会・午前の部に出演し、合唱曲「A good day」と「海を見つめて」を文化会館大ホールで披露します。見たい方もおられると思いますが、収容人数の都合で、一般保護者の方の入館は禁じられています。悪しからずご了解ください。ご鑑賞になりた

い方は、同じ合唱を「けやき坂地区文化祭」で11月6日(日)12:30~けやき坂公民館・1階集会室で発表しますので、ぜひ、ご覧ください。